

## おわりに

この研究で構築した WEB を活用した情報共有・発信のための仕組みは、全病連の4つの研究推進委員会（「筋ジス研究推進委員会」，「慢性疾患研究推進委員会」，「脳性まひ等研究推進委員会」，「心身症等研究推進委員会」）ですすでに活用が始まっている。全病連全国大会は、各推進委員会の2年間の研究成果を基に分科会等を運営できるようになり、活発な討議ができるようになった。その研究成果の一部は、小児保健研究など査読付き論文として発表することができた。精神疾患に関しては、全国児童青年精神科医療施設協議会（全児協）と協力関係を結び、支援冊子作成（精神疾患総論編）への協力をはじめ、今回の研究でも医療側からのアドバイスをいただいている。

このように特別支援学校（病弱）のセンター的機能をその地域のみで発揮させるだけでなく、WEB 上で、各学校や病弱教育担当教員の支援機能を統合し、全国レベルで活用できれば、スケールメリットが働き、個々の学校や教員レベルの資質や専門性によらず、小中学校等に在籍する様々な病気の子どもへの支援にも貢献できた。また、国立成育医療研究センターなどとの連携協力が確立するなど、医療との連携も進んだ。

報告書の最後に、本研究に関わって頂いた皆様に感謝を申し上げる。

研究代表者 教育研修・事業部上席総括研究員 西牧 謙吾

